

のアルバム

▼4月14日 篠原小学校と周辺



新1年生の交通安全教室

4月に入学した篠原小学校1年生（28人）の交通安全教室が開催され、おまわりさんから横断歩道や踏切の渡り方など交通ルールを学びました。

児童らは、さっそく通学路で実践し、おまわりさんと先生から「良く出来ました。」とほめてもらい喜んでいました。

毎日安全に登下校してくださいね。

復興の願いを込めて

東日本大震災で被災した福島県南相馬市で兵主大社（五条）が「いにしへの縁をたどる 祈りのコンサート in 南相馬」を開催（3月26日）しました。

当日は、復興への願いを込めた舞や兵主太鼓の演奏を披露し、来場した約200人が安らぎと希望の時間を過ごしました。

また、震災により犠牲になられ、尊い命を失われた方々に哀悼の意を表し、復興が一日も早く実現されることを願った市長メッセージを届けていただきました。



▼3月31日 市役所



南相馬市民情報交流センター

▼3月15日 吉川地先



若手でブランドを守ります

吉川地域では野菜の生産、特に春菊の生産が盛んで、「しゅんぎく娘」という名でブランド化し県内をはじめ、京都や大阪の市場に出荷しています。

この「しゅんぎく娘」のブランドを守ろうと若手農業者（10人）が新たに吉川野菜生産出荷組合青年部会を発足し種取り用の苗を植える活動をしています。

今後は、病気になりにくい「しゅんぎく娘」の品質改良や、作業の機械化試験など行われる予定です。

このような活動を市として今後も応援していきます。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(140)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

農作業の風景を描いた 「四季耕作図屏風」

博物館で5月29日(日)まで開催しているテーマ展「近江の老農 大岡利右衛門」では、野洲市比留田出身の老農（農業指導者）、大岡利右衛門（1832～1912）を紹介するとともに、「四季耕作図屏風」も展示しています。

四季耕作図とは、農作業風景を四季の風物とともに描いた絵画です。平安時代から鎌倉時代の絵画は、田植えや刈り入れなどの農作業を背景として描くことはありましたが、一年を通して体系的に描くことはありませんでした。

しかし、15世紀の室町時代に、「耕織図」が中国から伝来したことで、四季耕作図が描かれるようになります。「耕織図」とは、中国宋時代の絵師、梁楷が耕作と機織の情景を描いた絵画で、日本ではこれを手本に、画僧たちによって水墨画調の四季耕作図屏風や襖絵が作られ、画派の狩野派に受け継がれたとされています。

16世紀中後期の織豊期になると、金箔地に彩色を帯びた耕作図が描かれ、多くの人物が登場するなど、「洛中洛外図」のように民衆の活気あふれる賑やかなものが、江戸時代の寛永期まで作られます。

江戸時代前期の17世紀中後期になると、江戸幕府の御用絵師、狩野探幽（1602～1674）が、余白を多くとり、登場人物が少ない、静寂で枯淡な様式の耕作図を確立したことで、その後に大きな影響を与えたとされています。

江戸時代中後期の18～19世紀には、版本・浮世絵・工芸品・絵馬などの画題となり、実在の地域や特定の家を写実的に描いた作品もつくられるようになり、耕作図は多様化を遂げて、明治時代へと繋がっていきます。

今回展示している「四季耕作図屏風」は六曲一双で、江戸時代後期から明治時代の農作業風景を表現したものです。水車、竜骨車、千歯こき、土臼、唐箕など、江戸時代に普及し、昭和30年代ごろまで用いられた農具が描かれており、かつての農業や農具を知る資料として興味深い作品です。この機会にぜひご観覧ください。（博物館学芸員 齊藤慶一）

■テーマ展「近江の老農 大岡利右衛門」

開催中～5月29日(日)まで

〔休館日：月曜日・5月6日(金)、野洲市民は入館無料〕



四季耕作図屏風 部分（個人蔵）江戸時代後期～明治時代



100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた松本フジエさん（行畑）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年3月20日生まれのフジエさんは、裁縫と旅行が大好きです。

一番の思い出は、ハワイ旅行で「とても楽しかった。」と話されていました。いつまでもお元気で。

▼3月22日 富波乙



農業の大切さを学びます

おうみ富士農業協同組合から食農教育や環境教育をテーマとした小学校の補助教材「農業とわたしたちの暮らし」児童用570冊、教師用38冊が寄贈されました。

子どもたちが食と環境や地域の農業への理解を深め学べるよう作成されたものです。

市内の小学校5年生の授業で私たちの暮らしを支えている農家の皆さんに感謝し、農業の大切さを学習します。

▼3月14日 市役所

